はじめまして！私、メゾンドカール９２８号室に住むおばさん！
最近の心配事は梅雨〜夏場のお弁当の匂いこれ大丈夫か？問題。ＴＬで百均のお弁当用抗菌シートがなかなかよいとの噂を聞いたので試してみよう！ということで、私は徒歩圏内の百均へ行くことにした。誰にも会わないのですっぴん眼鏡でいいよね？

がちゃりと玄関のドアを開けると、その音が重なった。ん？とそっちを見ると、空室だったはずの隣の部屋のドアの前に立っている人と目があった。
「あ、こんにちは」
「……はじめまして。先週引っ越してきました。よろしくお願いします」
「こ、こちらこそよろしくお願いします！」
「……」
沈黙。あ、口下手さんだ！
しかしスーパーイケメンだ！しかも三十代半ばに見えるこのイケメンは、出掛けるところだったのかリュックを背負って、エルゴで赤ちゃんを抱っこしている！ドアノブにかけた左手薬指に光る指輪もまた眩しい。このイケメン＋結婚指輪＋赤ちゃん抱っこコンボのパンチ力よ!!

対する私は由仁黒＋すっぴん眼鏡の防御力ゼロ。そのまばゆさに耐えきれない。ついでに沈黙にも。かといって撤退もできず、私は目をそらしてパパの胸元の赤ちゃんのふわふわピンク髪を見た。顔は見えないけど、つむじかわいい。これだけで癒やされる〜。

「赤ちゃんかわいいですね。何ヶ月ですか？」

「もうじき一歳三ヶ月になります」

　イケメンがフッと笑った（直視できないけど気配がした）。ちゃんと月齢も覚えてんのか！口下手だけどいいパパしてんだろうな！私は心の中で天を仰いだ。すると赤ちゃんが急に振り返ってにっこりと笑った。くぁぁぁ！きゃわゆいいいいっ！まごうことなき天使！そして眉毛がまんまパパ！

「あら？ヒュンケルどうしたの？」

　私が再び心中で天を仰いでいると、部屋の中から女性の声がした。多分奥さんだ。程なく玄関のドアから赤ちゃんと同じ色の髪の女性が出てきた。

「はじめまして。ご挨拶に行こうと思っていたのですが、なかなかタイミングが合わなくて」

　奥さんもスーパー美人！スタイルいい！その美しい人が親しげに笑ってくれた！でもその笑顔が不意に心配そうに曇った。

「あの、小さい子がいて、夜泣きでうるさくしちゃってたらごめんなさい」
夜泣き？ああ、最近深夜にネトフリみてたらうっすら聞こえたあれかな？
「全然気になりませんよ！」
「ああ、よかった！」
奥さんは晴れ渡る空のように再び微笑んだ。美人さんだけど、くるくる表情がかわいい人だあ！イケメン夫さんにはちょっと緊張しちゃったけど、奥さんは人懐っこそうで、いいご夫婦だ！
そう思って奥さんを見ていると、小さめのショルダーバッグにマタニティマークがついていることに気がついた。まだ目立たないけど、もしかして。そんな視線に気づいたのか、奥さんはちょっと申し訳なさそうな顔をした。
「春先に……。またうるさくなると思いますが、すみません」
「いえいえ！何かお手伝いできることがあったら言ってくださいね」
そういうと奥さんはほっとした顔をした。その足元に五歳くらいの男の子が「ママおでかけは？」としがみついてきた。そっかお子さん三人かあ。大変だなあと思っていると、奥さんは優しい笑顔でその男の子のあたまを撫でた。
「もうちょっと待っててね。あ、上の子どもたち！ご挨拶に出てきなさい」
うえのこどもたち？

続いて出てきたのは、十歳くらいの同じ背格好の男の子ふたりと、少し年下の女の子。え、お子様六人？
「保育園……」
思わず呟いてしまった言葉に、奥さんは顔を真っ赤にした。
「す、すみません。大家族で……」
あー、奥さん顔を真っ赤にしてもかわいいな！でもめちゃくちゃ失礼なこといっちゃったよ！私は慌ててとりなそうとした。
「こっ！子どもは国の宝じゃけえ！」
訛った！慌てすぎて訛った！
けれど奥さんは目をまんまるにして、それからくしゃっと笑ってくれた。
「かわいいですね！初めて聞きました！」
ねえ、と奥さんは夫さんを見上げた。頷く夫さんは目元を綻ばせている。絶対この人、訛りよりオレの奥さんかわいいって頷いたよね?!ああ、人前でも抑えきれない甘々さよ。このご夫婦、お互いが好きすぎるな!!